山口大学医学部附属病院

第一内科

消化管内科
肝臓内科
胆道膵臓内科

【診療科(部)の特色】

臨床から研究まで、消化器内科を幅広く学ぶ

第一内科では、消化器疾患全般を対象に、内視鏡やカテーテルを用いた低侵襲治療をはじめ、幅広い診療に取り組んでいます。急性疾患から慢性疾患の継続的な管理、がん薬物療法、緩和医療まで、患者さんの病状や生活に寄り添いながら診療を行っています。

消化器内科に必要な知識を体系的に学ぶ座学に加え、内視鏡検査・治療やカテーテル治療など、様々な手技を段階的に習得できることが当科の特色です。

新たな治療法の開発

当科では、日常診療に加えて、基礎研究・臨床研究・医師主導治験にも幅広く取り組んでいます。

その一例として、肝硬変患者さんの骨髄液から培養した間葉系幹細胞を肝動脈内に投与し、肝再生を促す「自己完結型肝硬変再生療法」を開発しました。現在、その有効性と安全性を検証し、広く普及させることを目指して医師主導治験を実施しています。

【研修目標】

一般内科医としての基本的な診療技術を身につける

消化器内科医に限らず、救急医療や地域医療、終末期医療を担う医師を目指す先生方にも不可欠で基本的な診療技術（病歴聴取、診察、理学所見など）に加えて、消化器内科医としての基本的な診療技術（腹部超音波検査や上部消化管内視鏡検査）を身につけます。



【研修内容】

入院担当

病棟では主治医として指導医と共に入院患者さんの診療を行い、コミュニケーションスキルを磨き、疾患の病態を考察しながら診断・治療に関する知識が深まるよう指導しています。



カンファレンス

毎週行われる病棟カンファレンスに加えて、各専門領域カンファレンスで症例プレゼンテーションを担当し、外科や放射線科、病理の先生方との意見交換により多角的な視野を養う機会を設けています。

検査手技

上部消化管内視鏡検査や腹部エコー検査などを担当し、消化器領域の基本的手技の修練を行います。

山口大学医学部附属病院

第一内科

消化管内科
肝臓内科
胆道膵臓内科

【キャリアパス】

＜コンセプト＞　診療での「内科専門医～消化器病学会専門医取得」
研究での「大学院進学～医学博士号取得」

当科に入局した医師 3 年目の先生方は「内科専攻医」として 3 年間（医師 3～5 年目）の研修を行います。また並行して、内科専攻医 2 年目（医師 4 年目）から消化器病学会専門医や消化器内視鏡学会専門医・日本肝臓学会専門医の研修を並行で行い、いずれも最短での資格取得をサポートします。研修期間中に専門領域各班（消化管、肝臓・胆膵）に所属して、専門領域手技を習得します。こうして総合的な消化器内科医に専門領域の知識技術を兼ね備えた専門医を育成します。大学院は内科専攻医修了後の医師 6 年目以降に入学し、医学研究に携わる機会を持ってほしいと考えています。

【指導医からのコメント】

消化器内科（第一内科）が担当する疾患は、肝臓、胆・膵、消化管領域と多岐にわたります。さらに、それぞれの領域で急性期疾患から慢性期疾患まで幅広く診療するため、自分の興味や適性に合った仕事を見つけやすい分野だと思います。
内科でありながら、内視鏡やカテーテル、エコーを用いた検査・治療など、様々な手技を経験できその技術を取得できることも大きな特色です。AI の活用が益々進む時代においても、患者さんと向き合いながら磨き上げる専門的な知識と確かな技術は、今後も必要とされ続けるはずです。
ぜひ、同門の仲間として、私たちと一緒に働きましょう！

【先輩(若手医師)からのコメント】

田中康行　先生（令和 3 年卒）
第一内科では、肝臓・胆膵・消化管疾患を幅広く経験できます。
内視鏡検査や超音波検査、血管造影検査など、さまざまな手技に触れる機会も多く、
研修を通して自分の興味のある分野を見つけ、深めていけることが魅力だと感じています。
大学病院では、それぞれの分野を専門とする先生方の指導のもと、
一般的な消化器疾患から高度な専門医療まで経験でき、日々少しずつ成長を実感できます。
消化器内科に興味のある方は、ぜひ第一内科で一緒に研修しましょう！

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院　第 1 内科　西村　達朗（医局長補佐・助教）
Tel：0836-22-2239　Fax：0836-22-2303
E-mail：naika_w@yamaguchi-u.ac.jp　Website：http://www.ichinai-yamaguchi.jp/